

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2498 号

Ultrasound-guided puncture reduces bleeding-associated complications, regardless of calcified plaque, after endovascular treatment of femoropopliteal lesions, especially using the antegrade procedure: A single-center study

超音波ガイド穿刺は特に同側順行穿刺における大腿膝窩動脈の血管内治療後の出血性合併症を石灰化プラークの有無に関わらず減少させる：単施設研究

福田 健太郎（ふくだ けんたろう）

博士（医学）

論文内容の要旨

閉塞性動脈硬化症または重症虚血肢患者の大腿膝窩動脈病変に対する血管内治療における最も一般的な合併症は穿刺部の出血性合併症である。これまでも様々な研究で多くの出血性合併症に関連する因子が挙げられてきているが、その結果は controversial である。そのため、本研究では穿刺部の出血性合併症の予測因子を評価することを目的とした。この後ろ向き単施設の観察研究には 2010 年 1 月から 2017 年 12 月末の期間に順天堂練馬病院で血管内治療を受けた、大腿膝窩動脈に病変を有する閉塞性動脈硬化症と重症虚血肢を対象とした。Bleeding Academic Research Consortium (BARC) の出血基準に則り、「出血群」と「非出血群」に分類し検討を行った。366 症例に対して、404 穿刺が行われ 35 穿刺 (9%) に穿刺部位の合併症が発生し、そのすべてが出血性合併症であった。出血性合併症の増加に関連した因子は、80 歳以上の高齢者と同側順行穿刺であり、減少に関連した因子は超音波ガイド穿刺であった。一方で、穿刺部に石灰化プラークが存在すると穿刺部の出血性合併症が増えることが示されているが、本研究では石灰化の影響を受けなかった。超音波ガイド穿刺で石灰化を避けるように、最適の穿刺部位を選択したことにより出血性合併症が低減されたものと考えられ、特に 80 歳を超える高齢者と同側順行穿刺の際には超音波ガイド穿刺を積極的に使用するべきである。